



# 管内経済情勢報告

～中国地方の経済情勢について～

平成 30 年 1 月  
財務省 中国財務局

(平成 30 年 1 月 31 日公表)

**【お問い合わせ先】**

中国財務局経済調査課(森山、藤田)

電話 (082) 221-9221(代表)


(082) 223-3038(直通)

Fax (082) 221-3845

<http://chugoku.mof.go.jp/>

## 1. 総論

### 【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」









項目	前回（平成29年10月判断）	今回（平成30年1月判断）	前回比較
総括判断	回復しつつある	緩やかに回復している	

（注）平成30年1月判断は、前回平成29年10月判断以降、平成30年1月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### （判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売、スーパー販売が好調で、コンビニエンスストア販売や家電大型専門店販売が堅調であるなど回復しつつある。生産活動は、輸送機械が高操業を維持し、化学が増加しているなど緩やかに回復している。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と広がっている。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（平成29年10月判断）	今回（平成30年1月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	回復しつつある	
生産活動	回復しつつある	緩やかに回復している	
雇用情勢	着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている	着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている	
設備投資	平成29年度は前年度を上回る見通し	平成29年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	平成29年度は増益見通し	平成29年度は増益見込み	
企業の景況感	「上昇」超に転じる	「上昇」超幅は拡大	
住宅建設	前年を下回る	前年を上回る	
輸出	前年を上回る	前年を上回る	

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果に支えられ回復していくことが期待される。ただし、海外経済等の不確実性やそれに伴う為替の動向などを注視していく必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店販売は衣料品、乗用車販売台数は小型車が低調であり前年を下回っている。ドラッグストア販売は日用消耗品、スーパー販売は食料品が好調であり前年を上回っている。また、コンビニエンスストア販売や家電大型専門店販売は堅調に推移している。このように、個人消費は、全体では回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 衣料品全体は悪いものの、前年より早い時期から寒くなり、ジャケット、コートなど防寒の衣料品は好調である。(百貨店)
- 気温が下がり、カイロや風邪薬、マスク、乾燥対策のスキンケアクリームなどが売れている。(ドラッグストア)
- 野菜、肉、スープの素など鍋商材が売れている。おせちやオードブルもよく売れた。(スーパー)
- 10月の長雨、台風の影響で客数が落ち込んだものの、デザートなどの嗜好品の売れ行きがよく、消費マインドは悪くない。(コンビニエンスストア)
- 省エネや節水タイプの洗濯機など高機能の白物家電が好調である。(家電大型専門店)

### ■ 生産活動 「緩やかに回復している」

輸送機械は、自動車が国内外の需要が堅調であることから高操業を維持している。化学は、自動車向けのプラスチック素材や半導体部品の原料など、幅広い製品分野における国内外の需要を背景に増加している。電気機械は、スマートフォンや自動車向けの電子部品・デバイスが堅調で増加している。はん用・生産用・業務用機械は、火力発電用機器や建設機械などが減少しているものの、自動車関連の工作機械の需要増加などを背景に、堅調な動きとなっている。鉄鋼は、自動車や建材向けの需要が堅調で増加している。このように、生産活動は、全体では緩やかに回復している。

#### (主なヒアリング結果)

- 国内外のSUV需要が堅調なため高操業が続いており、生産能力を拡大して対応している。(自動車)
- 軽自動車は、主力車種の生産水準が上昇傾向である。(自動車)
- スマートフォンや自動車向けの需要増加に伴い、国内向け半導体部品の原料がフル生産となっている。(化学)
- 新型スマートフォン向け部品の受注が好調であり、増産体制に入っている。(電気機械)
- 建設機械は国内向けで環境規制前の増産の反動があるが、海外向けは欧州を中心に好調で増加している。(生産用機械)
- 国内及び北米向けの自動車部品を中心に工作機械が好調で、受注に生産が追いついていない状況である。(生産用機械)
- 国内の自動車向けの薄板が堅調であるほか、東京五輪に向けて首都圏を中心に都市開発やホテル建設が徐々に活発となっていることから、建材向けの形鋼も堅調である。(鉄鋼)

### ■ 雇用情勢 「着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている」

有効求人倍率(平成29年9~11月)は1.75倍と、全国の1.54倍と比べ高水準で推移しているほか、新規求人数の増加などから新規求人倍率も上昇している。また、完全失業率も低水準で推移するなど、雇用情勢は、着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている。

#### (参考) 広島県の賃金の動き

現金給与総額(名目賃金)は、平成29年10月で前年同月比▲0.6%と前年を下回っている。

#### (主なヒアリング結果)

- 受注が好調で業務量が増加している中、退職者もあり、人手不足感は強まっている。設備更新等の際に、従来人手をかけていた作業の自動化を行ったり、高齢者を複数名採用し、1週間の業務を分担してもらったりなどして、人手不足解消に取り組んでいる。(その他製造)
- 協力会社を含むすべての作業者が週一日以上休めるよう、施工主の協力を得ながら工期にゆとりをもたせ、建設現場の労働環境の改善に取り組むなど、人材を呼び込む工夫を行っている(建設)
- 企業主導型保育所を整備したことで、労働時間を多様化することができ、働き方の選択肢を提示することが可能となったことから、結婚を機に退職していた従業員の復職や既存従業員の離職の減少に繋がった。(教育、学習支援)

- **設備投資** 「平成 29 年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成 29 年 10~12 月期
  - 製造業では、石油・石炭などで減少するものの、鉄鋼、自動車などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
  - 非製造業では、運輸・郵便などで減少するものの、電気・ガス・水道、小売などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 自家発電設備の更新を行う。(鉄鋼)
- 発電設備の安全対策や能力増強投資を行う。(電気・ガス・水道)

- **企業収益** 「平成 29 年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成 29 年 10~12 月期
  - 製造業では、はん用機械などで減益となるものの、鉄鋼、生産用機械などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
  - 非製造業(除く「電気・ガス・水道」、「金融業、保険業」)では、医療・教育、小売などで増益となるものの、学術研究・専門・技術サービス、建設などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- **企業の景況感** 「『上昇』超幅は拡大」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成 29 年 10~12 月期
  - 企業の景況判断BSIは、「上昇」超幅が拡大している。なお、先行きは「下降」超に転じる見通しとなっている。
- **住宅建設** 「前年を上回る」
  - 新設住宅着工戸数で見ると、持家などが減少しているものの、分譲住宅、貸家が増加していることから、前年を上回っている。
- **輸出** 「前年を上回る」
  - 管内通関実績(円ベース)で見ると、輸出は、化学製品、鉄鋼などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジア、西欧などで増加している。  
 なお、輸入は、銅鉱、原粗油などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東、アジアなどで増加している。

### 3. 各都道府県の総括判断

	前回 (平成 29 年 10 月判断)	今回 (平成 30 年 1 月判断)	前回比較	総括判断の要点
鳥取県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつあり、生産活動は持ち直している。雇用情勢は着実に改善しており、人手不足感が広がっている。
島根県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動も回復しつつある。雇用情勢も改善しており、人手不足感が広がっている。
岡山県	回復しつつある	緩やかに回復している		個人消費は総じて回復しつつある。生産活動は緩やかに回復しつつある。雇用情勢は労働力需給が引き締まっており、人手不足感が一段と広がっている。
広島県	緩やかに回復しつつある	回復しつつある		個人消費は回復しつつあり、生産活動も回復しつつある。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と広がっている。
山口県	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動は緩やかに回復しつつあり、雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が引き続き強い状況にある。

# 管内経済情勢報告

(平成30年1月)

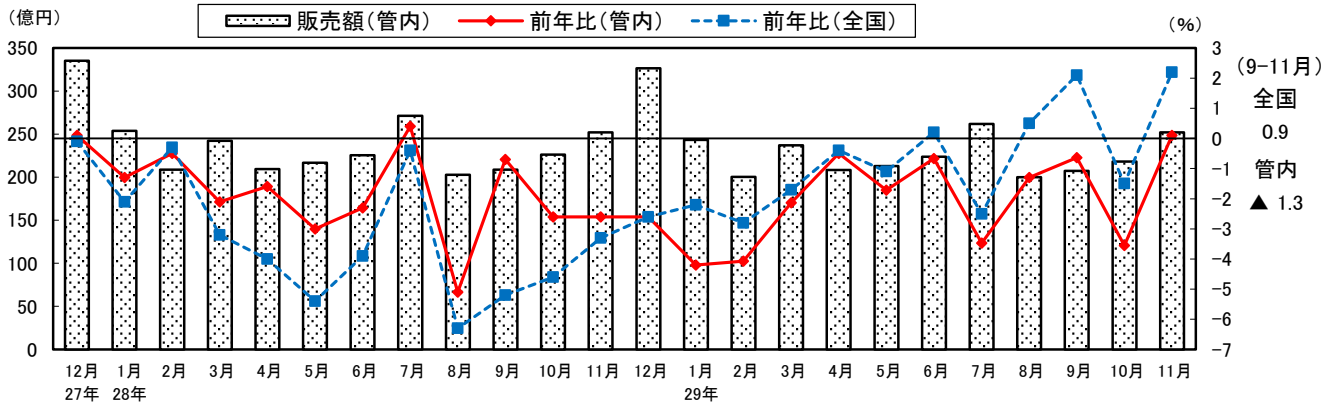
## 資料編

	目次	ページ
1.	個人消費	1
2.	生産活動	3
3.	雇用情勢	4
4.	設備投資	5
5.	企業収益	6
6.	企業の景況感	6
7.	住宅建設	6
8.	輸出	7

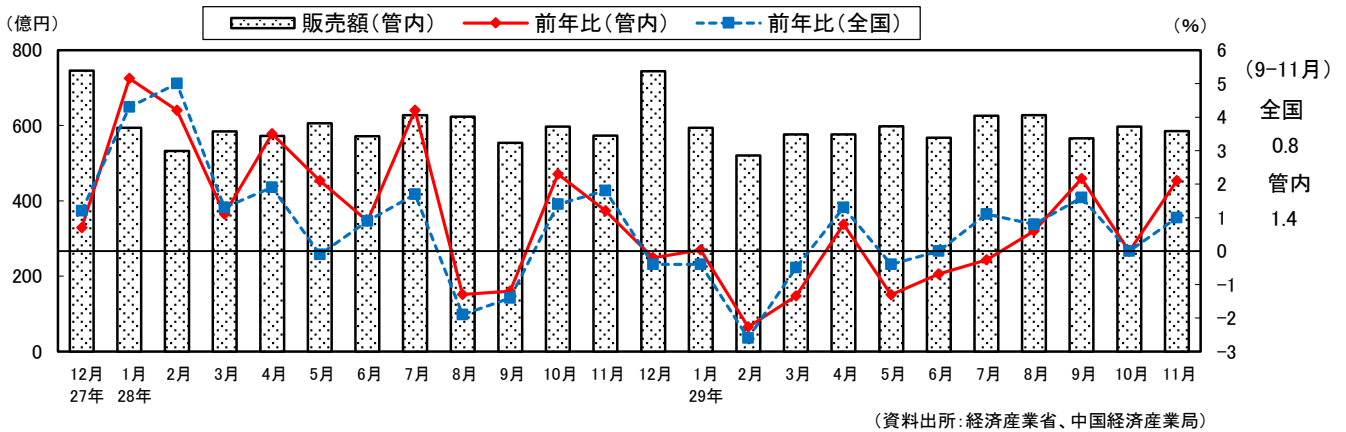
\*上記の項目ごとに掲載しているグラフの枠外（右側）に記載している計数は、当該項目の状況を分析する上で参考とした前年比。（但し、生産活動は鉱工業生産指数及び前期比、雇用情勢は有効求人倍率を記入。）

# 1. 個人消費 回復しつつある

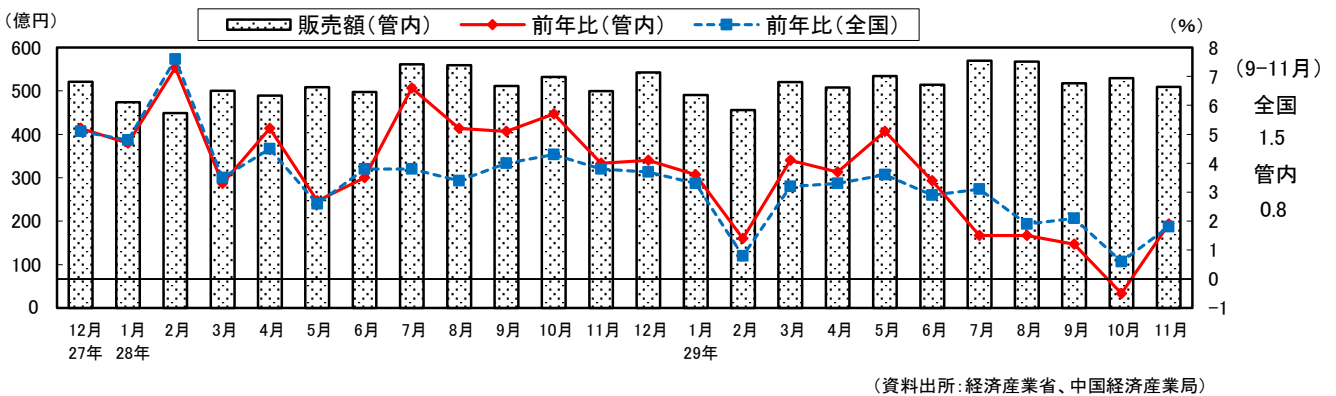
## (1) 百貨店販売額(全店舗:前年比)



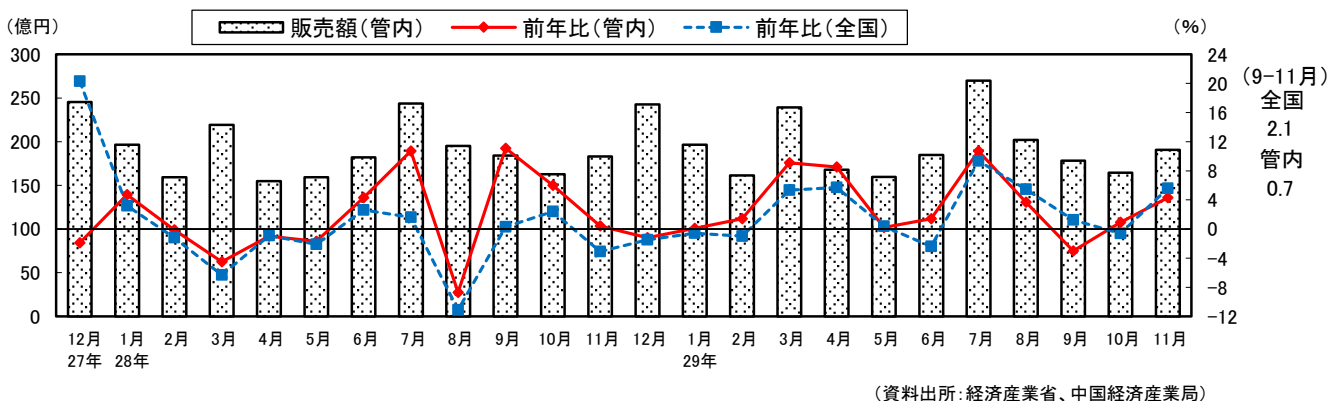
## (2) スーパー販売額(全店舗:前年比)



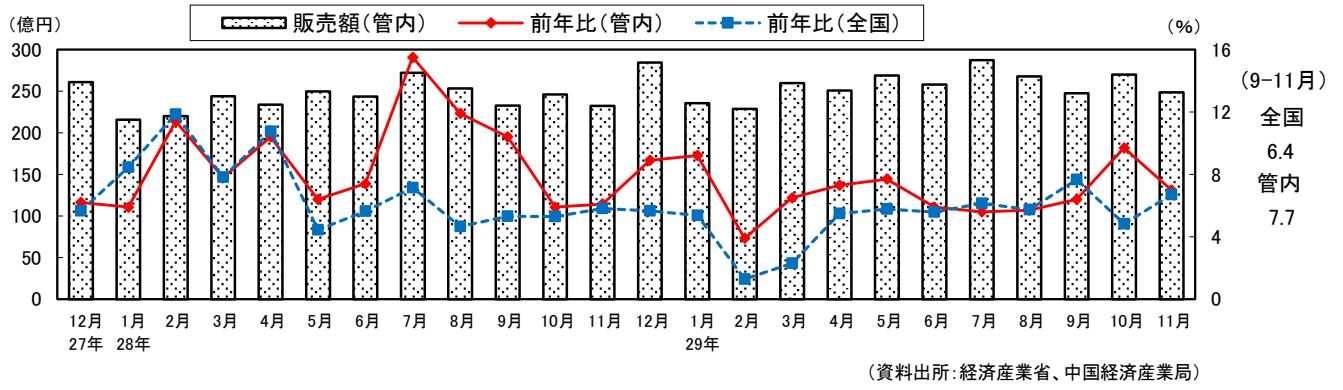
## (3) コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



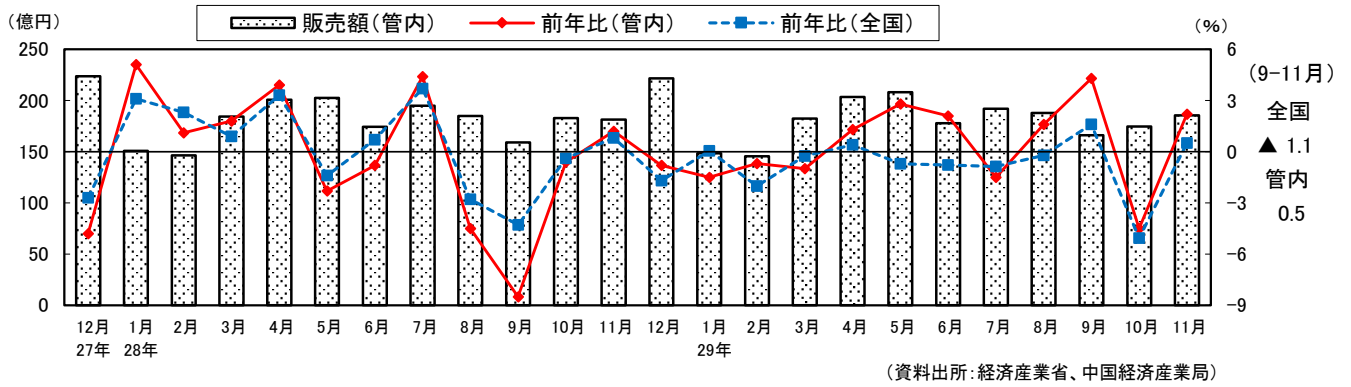
## (4) 家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



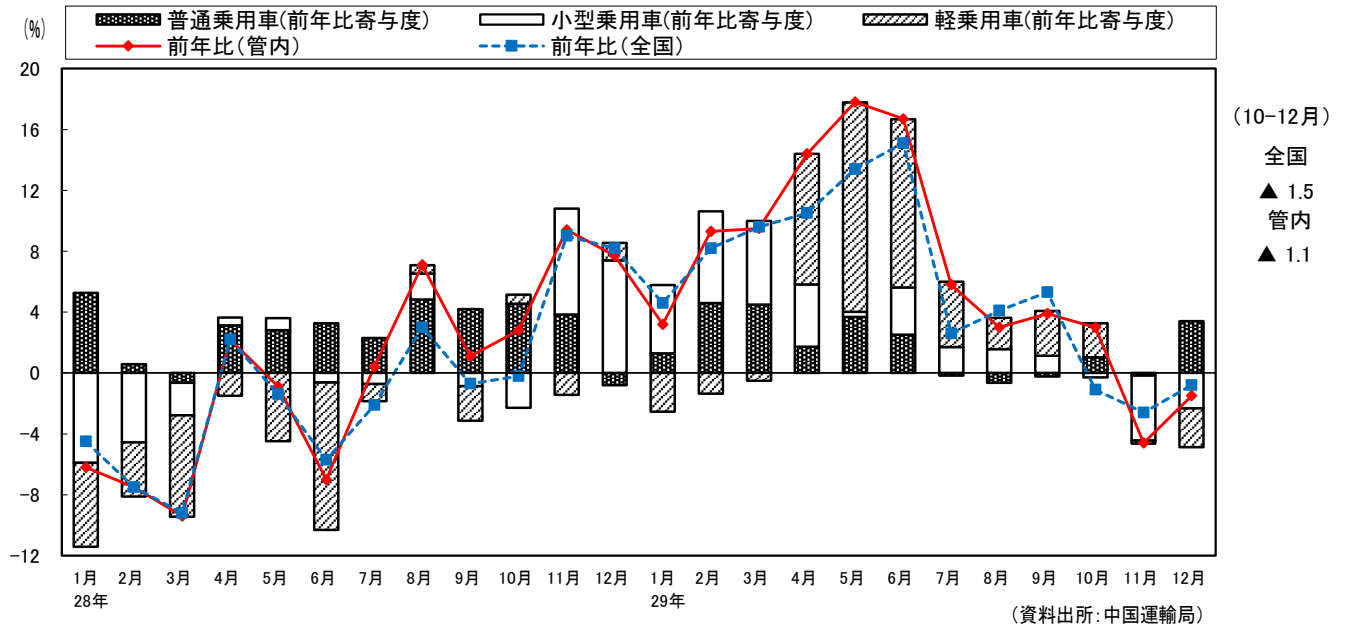
(5) ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)



(6) ホームセンター販売額(全店舗:前年比)

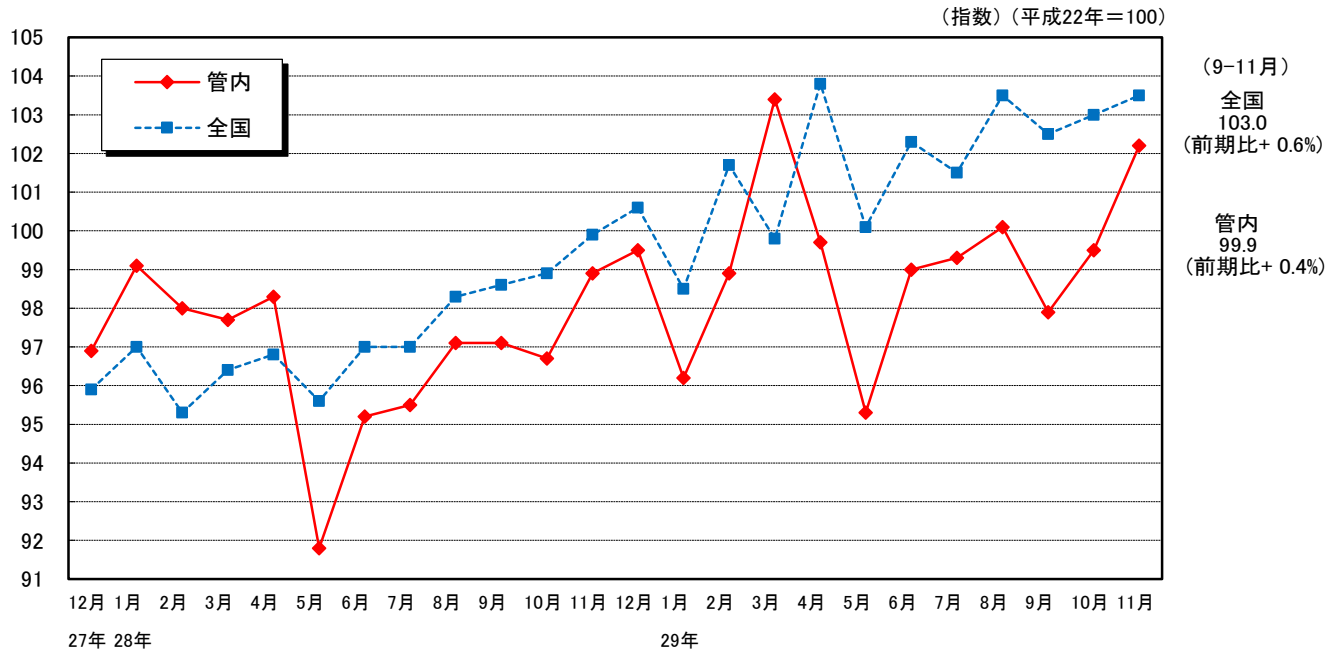


(7) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



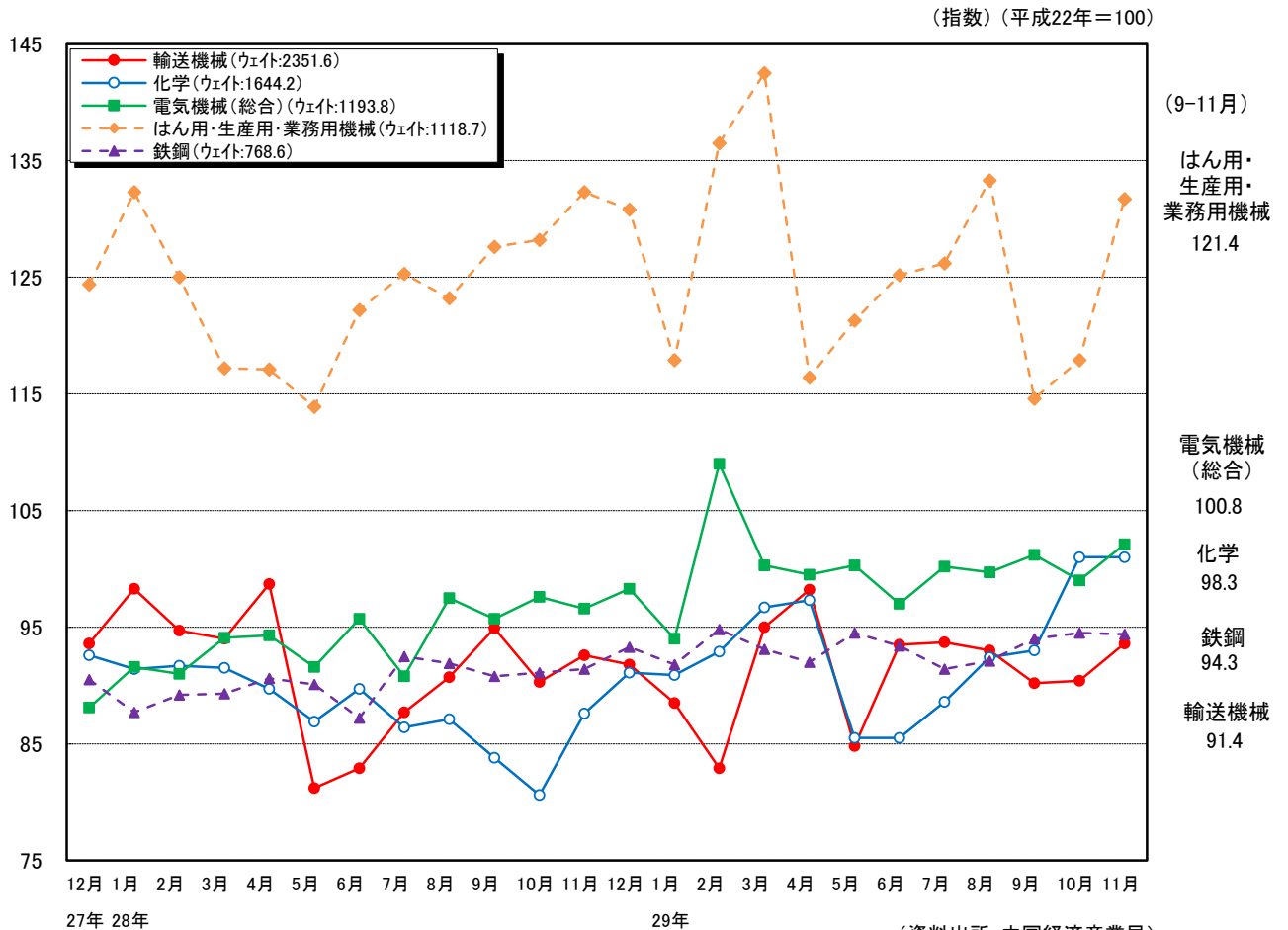
## 2. 生産活動 緩やかに回復している

### (1) 鉱工業生産指数(季節調整値)



(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

### (2) 管内主要業種別生産指数(季節調整値)

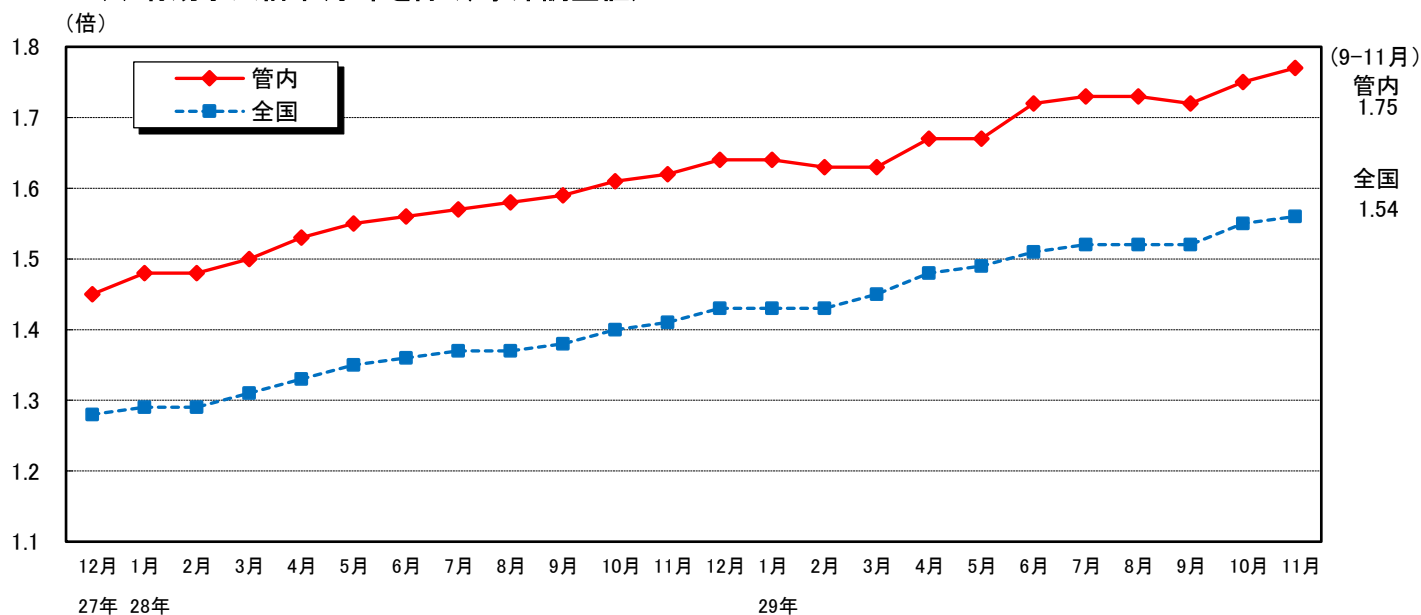


(資料出所: 中国経済産業局)



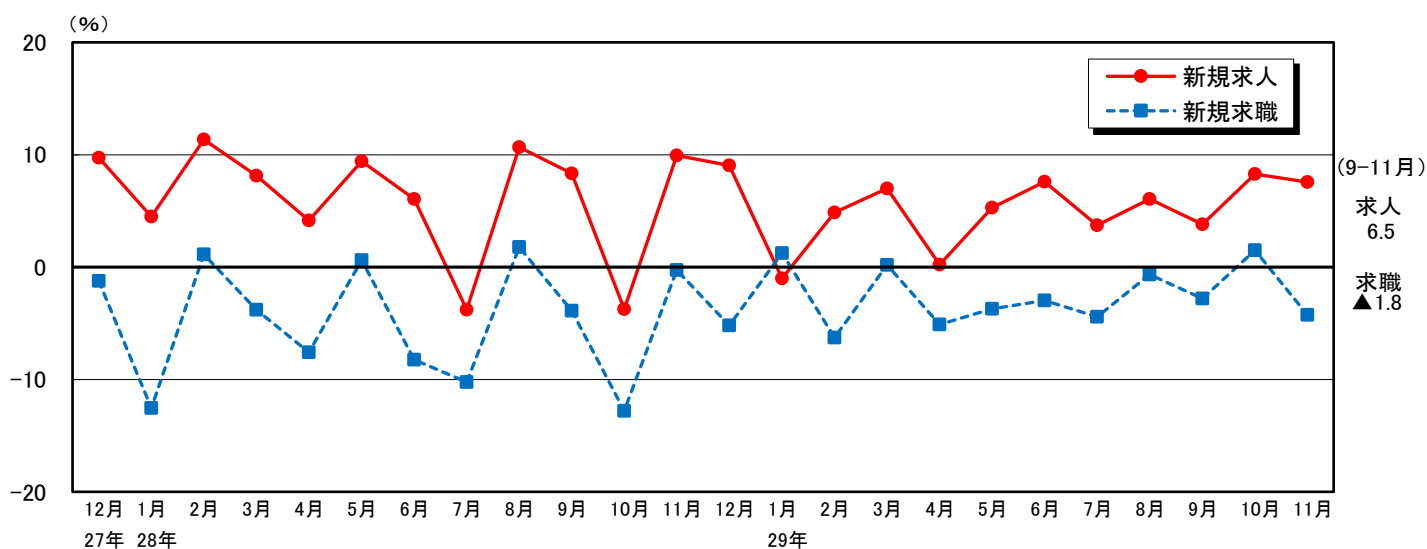
### 3. 雇用情勢 着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている

(1) 有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(資料出所:厚生労働省)

(2) 新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



(資料出所:厚生労働省)

【参考】完全失業率(原数値)

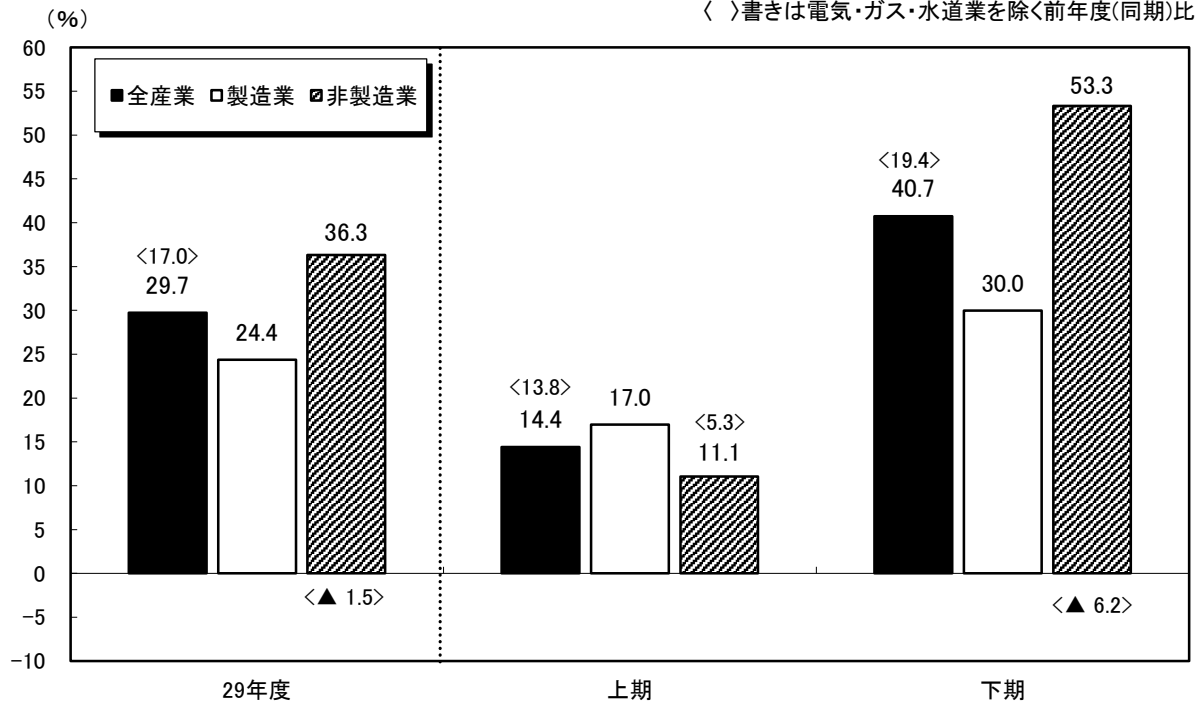
(%)

区分	27年平均	28年平均	27.10~12	28.1~3	28.4~6	28.7~9	28.10~12	29.1~3	29.4~6	29.7~9
管内	3.2	2.8	2.9	2.9	2.9	3.2	2.3	2.5	2.7	2.6
全国	3.4	3.1	3.1	3.2	3.3	3.1	2.9	2.9	3.0	2.8

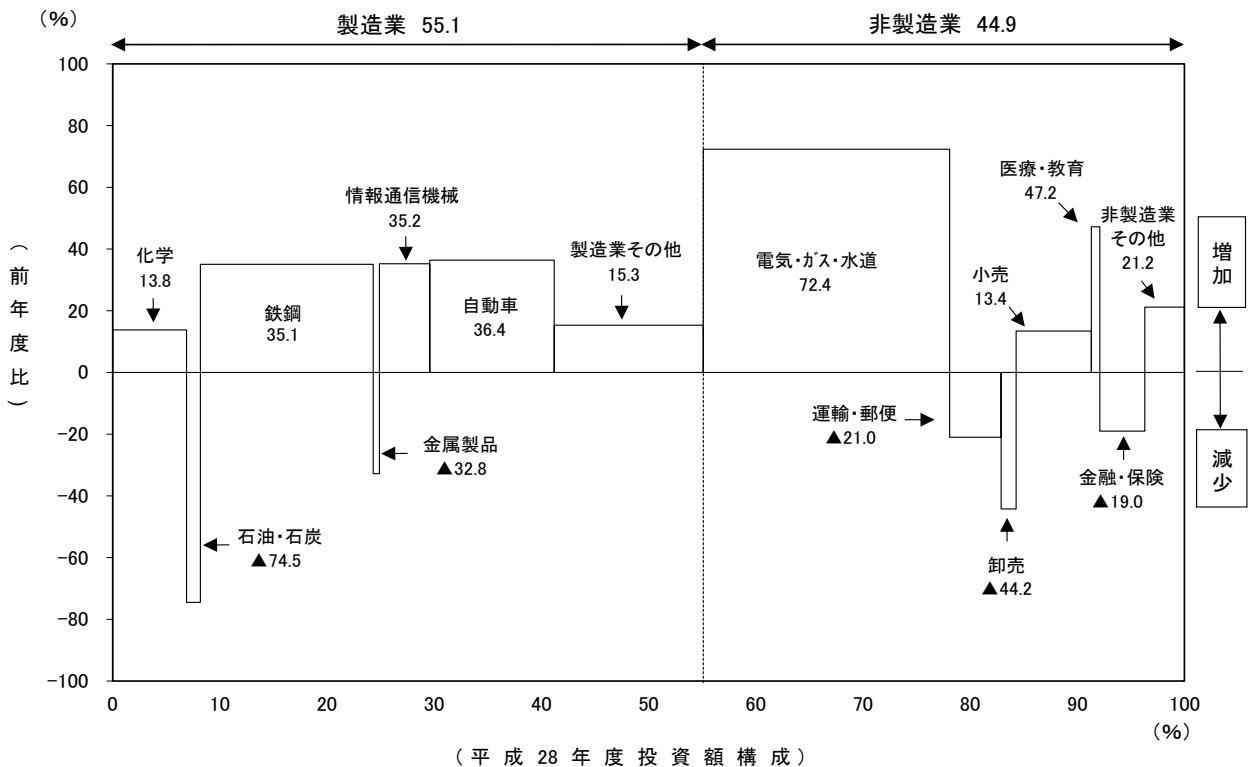
(資料出所:総務省)

## 4. 設備投資 平成29年度は前年度を上回る見込み

### (1) 設備投資額(前年度(同期)比)

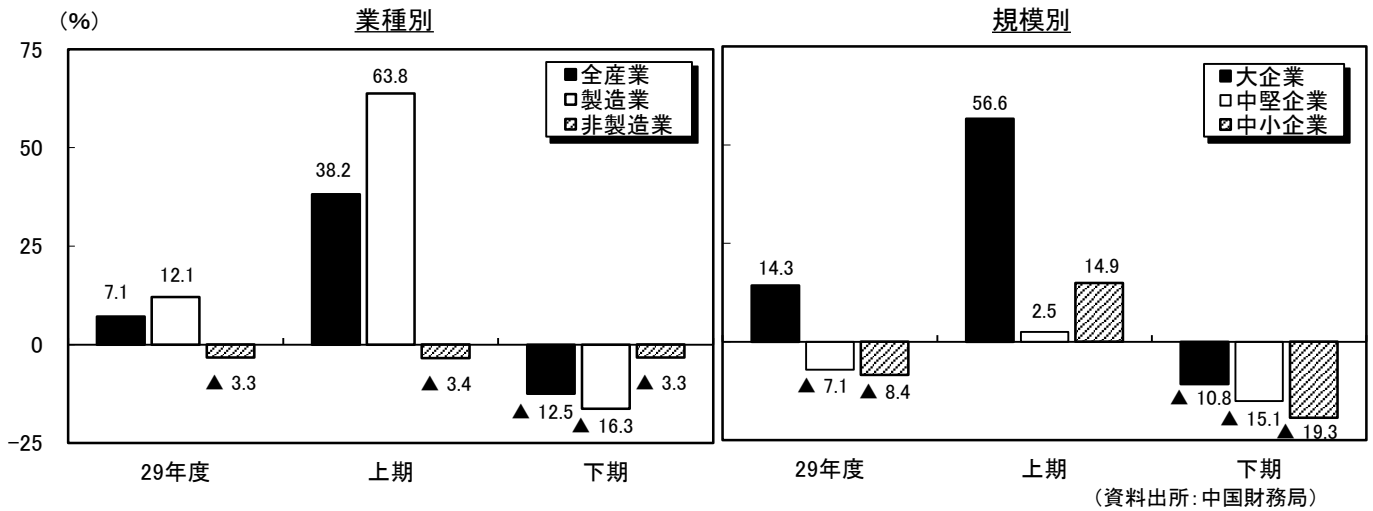


### (2) 主要業種別(平成29年度)



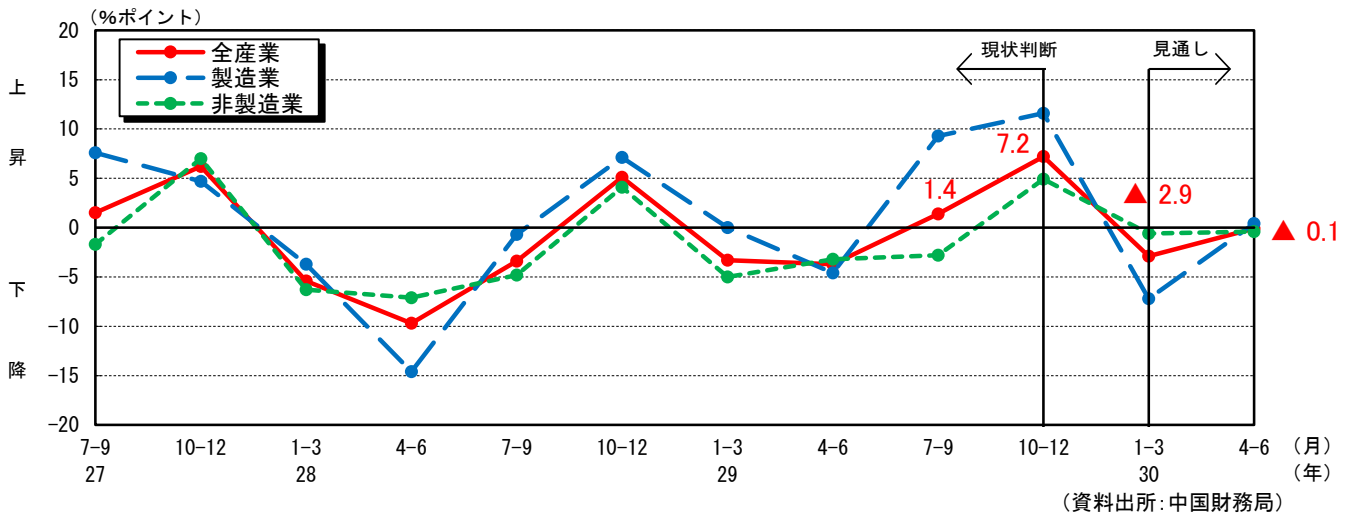
## 5. 企業収益 平成29年度は増益見込み

経常利益(電気・ガス・水道業、金融業、保険業を除く:前年度(同期)比)



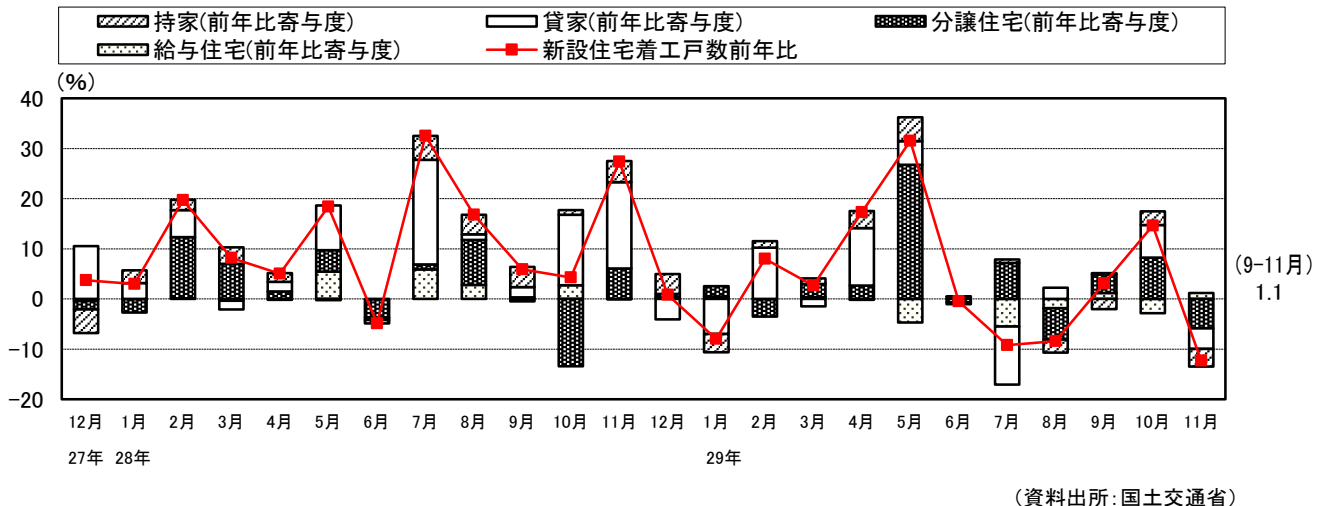
## 6. 企業の景況感 「上昇」超幅は拡大

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)



## 7. 住宅建設 前年を上回る

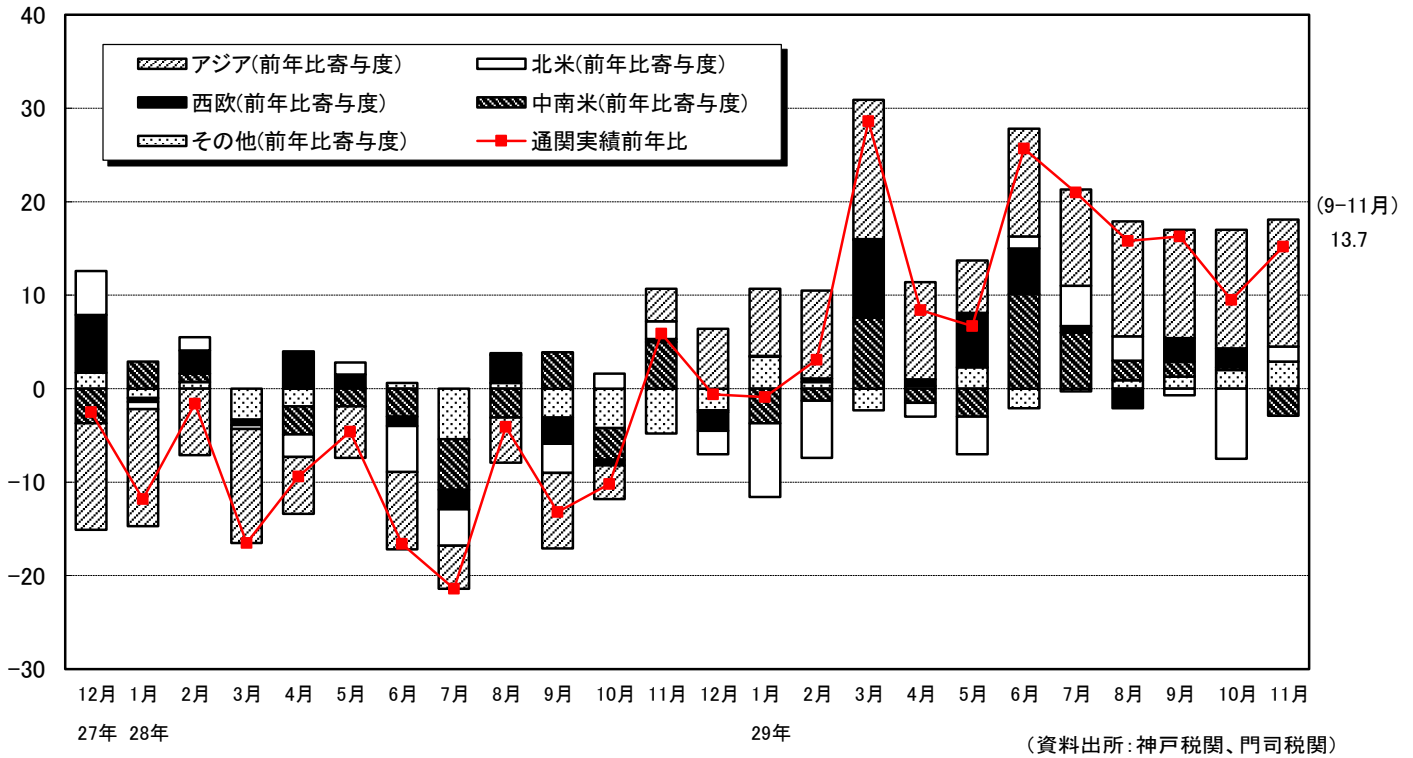
新設住宅着工戸数(前年比)



## 8. 輸出 前年を上回る

輸出(円ベース)

(%)



<参考>

輸入(円ベース)

(%)

